

キャリア教育の一環としての 「応用期セミナー」

教育学部附属教育支援センター長：原 丈貴

教育学部の学部生は3年次に「学校教育実習」を履修します。まず主専攻に応じた校種で春と秋に分けて合計4週間、その後、副専攻に応じた校種で1週間の教育実習を行います。

大学生にとって3年次は卒業後の進路を具体的に考え、それに向けて動き始める時期であり、教育実習を終えたタイミングで必修の「応用期セミナー」を実施しています。主な目的は、以下の2点です。

(1) 基礎体験活動の実際を踏まえ、一人一人がこれまでの体験時間を確認し、基礎体験活動に対する成果と課題を明らかにする。

(2) これまでの活動を振り返って今後の大学生活を展望するとともに、進路決定に向けての自己啓発を強く促す。

セミナー実施に際して事前に参加者に卒業後の進路に関するアンケートを取り、進路希望別のグループを作成します。それに基づいた学生アドバイザー（卒業年次生）を配置し、3年後期から進路が決定するまでにどのような計画を立て、具体的にどのようなことを行ったかなどについて、質疑応答も交えて事例発表を聞きます。

参加した学生からは「見通しがもてた」「課題が見つかった」「意欲が高まった」などの感想がありました。

